

Wonderland Kyusyu

THE ROYAL PARK
CANVAS
FUKUOKA NAKASU



HIBIGEI





1.4F-14F|GUEST ROOMの壁面 2,3.2F CANVAS Lounge 4.バルコニースイート(ツイン)の壁面 5.レセプション用ギフトボックス ※非売品 6.ホテルスタッフ着用サコッシュ 7.4F-14F|GUEST ROOM 8.KYUSYU MAPをあしらったうちわ ※非売品 9.KYUSYU MAPをあしらったポーチ ※非売品

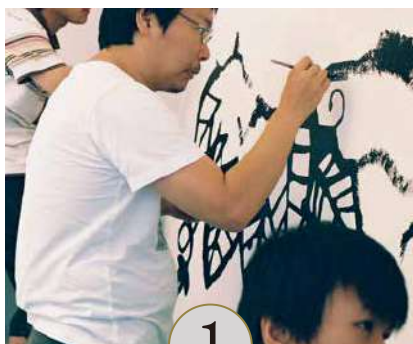


障害者アートスタジオ「HIBIGEL」が 九州をクリエイト！

@ザ ロイヤルパーク キャンパス 福岡中洲

障害のある人の作品を、社会的な価値に変えるアートスタジオ「HIBIGEL」が、福岡中洲にオープンするホテルで、「九州」をテーマにロビーや客室のアート、スタッフが使うサコッシュ、ノベルティなどのデザインを手掛けました。「多様な人が集まる場所に」というホテルのコンセプトを体現するような、プロジェクトの中身をご紹介します。

プロジェクトのポイント



1

POINT

障害のあるアーティストと
一緒につくることで
多様な関わりを生み出す



2

POINT

間に立って
キュレーションすることで
課題に深くコミットする



3

POINT

仕事を通して
社会の寛容さを
少しずつ広げていく

Wonderland Kyusyu

アートで巡る九州案内



福岡県「九大の森」
Artist: 柳田烈伸



大分県「別府公園の竹林」
Artist: 石井悠輝雄



熊本県「菊池渓谷」
Artist: 松永大樹



佐賀県「浜野浦の棚田」
Artist: 山田恵子



長崎県「九十九島」
Artist: 松永大樹



宮崎県「高千穂峡」
Artist: 山田恵子



鹿児島県「桜島」
Artist: 柳田烈伸



福岡県「白糸の滝」
Artist: 石井悠輝雄



大分県「由布岳」
Artist: 石井悠輝雄



熊本県「鍋ヶ滝」
Artist: 松永大樹



KYUSYU MAP
Artist: 複数

HIBIGEIの取り組み

そもそもの社会背景

日本人の17人に1人が障害者であると言われています。彼らはふだん障害者施設に通い、障害の度合いに応じて様々な作業を行っています。その一つが「絵を描くこと」。本プロジェクトに参加した工房まるもまた、アートに特化した活動に力を入れている事業所の一つです。

2006年に障害者自立支援法が施行され、障害がある人達が就労し、より多くの収入を得ようという流れが生まれました。この「福祉の受け手から納税者へ」という社会的トレンドに応じて、障害者が描く絵を、収入を得るための仕事につなげる方法が模索され始めました。

HIBIGEIがやっていること

ふくしごとの事業であるデザインスタジオ「HIBIGEI」は、企業と障害者施設の間に立ち、障害者の作品をプロデュース、企画、デザインを行っています。企業の仕事の一部を障害者と一緒に行うことで、社会課題にアクセスし、企業のブランド価値そのものを高める提案をしています。同時に、障害者自身の収入アップにつなげています。

メンバーが、 今回のプロジェクトのポイントを振り返ります。

1

POINT

「障害のあるアーティストと一緒にすることで多様な関わりを生み出す」

最初にうれしかったのは、ザ ロイヤルパーク キャンパス 福岡中洲のご担当者が、「社会的にいいことをしなければならぬ」ではなく、「クールなことをやっているところと仕事がしたい」から声をかけてくださったこと。「私たちと同じ感覚を持っている人たちだ!」とワクワクしました。

今回のプロジェクトで、みんなのテンションが上がった!と感じた瞬間が2つありました。それは、「アーティストが活動する工房まるを訪問した時」と「メインビジュアルが上がってきた時」です。工房まるでは、スタッフとメンバーが自然にコミュニケーションをとっている様子が訪れる人を寛容にしますし、彼らの絵がかっこいいビジュアルに生まれ変わる様は、私たちの気持ちを高揚させてくれます。

工房まるのメンバーたちは、プロジェクトに参加することをとても喜んでくれます。それは彼らの仕事が認められることが、自分はもちろん家族や周りの人達にとっても自慢になるから。障害があるアーティストと仕事をするには、実はこんな効能もあるんです。



大西 衿沙

[プロジェクトマネジメント担当]

2

POINT

「間に立ってキュレーションすることで課題に深くコミットする」

障害があるアーティストとのものづくりをする上で、ふくしごとは必ずキュレーターとディレクターの役割を果たします。それは、アーティストが最大限に能力を発揮し、それがクライアントにとってよいアウトプットを生み出すため。様々な特性を持つアーティストが、「描きたい!」と強い気持ちを持って取り組むにはどうすればいいか、相談の仕方や進行管理を工夫をしています。さらに描かれた作品を、どのようにデザインし加工すれば魅力を最大限に発揮できるかは、私たちの腕の見せ所です。

今回もノベルティのご相談から始まったプロジェクトが、キュレーションを経て「多様なものの見方を持つアーティストが描く九州」というテーマにつながり、館内を彩るアートにまで発展しました。最終的にはホテルの重要なコンセプトの一つである「人を大切にすること」にまでタッチできたような気がします。

こうなってくると、受注発注の関係を超え「いままでに見たことがないものとともに作るチーム」になってくるのも、この仕事のおもしろいところです。



先崎哲進

【クリエイティブディレクション担当】
／ふくしごと取締役

3

POINT

「仕事を通して社会の寛容さを少しずつ広げていく」

ふくしごとがプロジェクトを通してやっているのは、実際に納品する「モノ」と同時に「モデル」を作ること。

例えば今回のプロジェクトでも「ホテルの仕事は、宿泊客だけでなく障害者の生活も豊かにすることができる」「寛容であると、チームがいきいきとしてくる」など、これまでのあたりまえがグイッと広がった実感がありました。

もし「意味わからん」「ありえん」と思ったら、その時がチャンス。なぜなら、いまの社会にはまだないものは、一番クリエイティブだから。ザ ロイヤルパーク キャンパス 福岡中洲さんとの仕事も、ここが完成ではなく、はじまりの予感がしています。さあ次はどんな見たことない景色を作りましょうか?



樋口龍二

[ふくしごと副代表]

Information

株式会社 **ふくしごと HIBIGEI**

〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代1-20-14 / TEL: 092-403-0091

ふくしごと

<https://fukushigoto.co.jp>



HIBIGEI

<https://hibigei.art>



WEBSITE

詳細については、
ウェブサイトからも
ご覧いただけます。

